

平成 24 年 6 月 11 日

『N I E (エヌ・アイ・イー) 釧路セミナー』参加報告

柳谷直明記

平成 24 年 6 月 8 日 5 校時目。釧路市立芦野小 5 年生の学級での授業を参観した。13 時芦野小着。

I 学級の感想

子供達の反応が実に良い。返事・挨拶がきちんとできている。最近、教師が話しかけても、「はい。」と言わない子供を許容している学級が多い。しかし、渥美学級は教師の指示に返事をさせていた。

II 教師（渥美清孝氏）の関わり

- 1 新聞記事を 3 つの要素に分割して指導した。見出し、リード、本文である。（私ならカットも指導する。1 つの記事で 3 分の 1 くらいをカットが占めて良い。）
- 2 トップ記事を書かせた。
- 3 トップ記事を評価した。
- 4 プラン君（いくつかの記事メモ）をナンバリングさせた。
- 5 他の 4 つの記事を 6 分間以内で書かせた。（子供達はよく反応していた。）
- 6 記述交流をさせた。
- 7 発表のモデルを見せた。
- 8 グループ内発表をさせた。
- 9 全体で 3 名に発表をさせた。
- 10 編集後記に「授業作文」を書かせた。

概ね、このような構成である。子供達は実に見事に鍛えられていた。授業の構成力が抜群である。

III 子供の活動

1 時間で A 4 判用紙の新聞を全員がほぼ完成させた。グループ交流では、自分の新聞記事を全員が発表していた。全体交流では、前に発表した子供の良さや問題点を改善して 3 名が発表した。

IV 授業批評（柳谷）

- 1 見出し、リード、本文という国語科「学習用語」を指導するのはよい。しかし、それが子供達全員の行為化になったとどう評価していたか。
- 2 具体的には、トップ記事に対する「学習用語」の行為化に対する評価がなかった。（私には、あまり見えなかった。）そこで、2 つ目の記事を書かせる際、見出しを意識して書いていない子もいた。
- 3 この新聞は下書きなのか本番なのか。下書きならば消ゴムをあまり使わせない方がよい。O 君は随分と記事を書いていた。しかし、その殆どを消してしまった。
- 4 さりげない指示が見事だった。例えば、話し手が聴衆を見ていない。そこで、聴衆の笑顔を指導する。そして、話し手にも聴衆の笑顔を見るように指示した。この様にして、話し手の視線を指導していた。更に、教師の無駄な発話が殆ど無かった。
- 5 今日を迎えるまでの新聞記事メモにどのくらい時間をかけたのか。（後の説明で、全 5 時間と紹介していた。この記事に対してのメモは 2 時間だったと。）1 時間で A 4 サイズ用紙の殆どをよく書いた。

- 6 文字が丁寧な子が多かった。普段から、何か丁寧に書くように指導しているのか。
- 7 挨拶が良い。明るい。他者を尊重している。なぜ、このような学級経営ができているのか。

V 検討会の様子

1 授業者から

子供達は6紙の新聞に群がっている。昼休み以降にスクラップしてよいことにしている。新聞の価値を感じている。近くにあるから読む。しかし、読むだけでは学力形成に繋がらない。新聞を読むための知識とか技能、新聞を書くための知識とか技能を子供達に指導している。

本時は新聞に取り組み出して5時間目。導入段階では、運動会の記事を書こうと言うと、書きたくないと言っていた。それが実態である。しかし、書き方を教えて書かしてみると、楽しくなってきたみたいだ。どう書くかが分からない、何を書くかが分からない。このような抵抗を取り除くと書きたくなってきたようだ。『自分の好きな物新聞』を2時間目で書かせた。3～4時間目で取材をさせ、『芦野小の良さ新聞』を今日書かせた。私の指導の在り方に御指導をいただきたい。

2 参加者から

- (1) 大学でもNIEの授業がある。新聞慣れしている人としていない人とは、読み書きに差が出る。今日の個別指導の際のアドバイスは何だったのか？
- (2) 秋田県の中学校では、NIE活動をやっていた。書かせて、発表させるという「言語活動の充実」が勉強になった。
- (3) NIEという言葉が今日、初めて聞いた。小学校の新聞記事を書いた記憶を思い出した。
- (4) 普段の授業の丁寧さが随所に見られた。子供達も非常にやり易かっただろう。新聞は読ませるのが大事なので、誰に読ませるために書かせるかという目的意識を持たせたい。販売店と協力して、折り込みに入れて貰うのはどうか。
- (5) 私は紙媒体だが、学生は電子媒体に慣れている。渥美先生はどのように指導したのか分からないが、芦野小学校の良いところを友達に伝えようという意識が強かった。どちらかというところのような授業は教員に対してという意識が強い。普段の授業でも、友達に伝えたいという意識を持たせていると感じた。学生には良く分からなかっただろうが、普段からかなり指導して、学習集団が作られているのだろう。日常が今日の授業を支えている。今日の授業は新聞べったりではなく、新聞を上手く使った学習という授業の良さが有る。新聞に埋没させるのではなく、新聞を上手くどのように活用するかの方法を示してくれた。クイズという欄も作っていた。今後、自分達で新聞の形を作っていく段階にどう繋げていくかが課題だ。

